

# 北大時報

July 2009

No.664

平成21年

7

## 平成22年度入学者選抜要項の決定

## 平成23年度以降の学部入試について —総合入試の導入—

## 平成24年度以降の本学における入学者選抜について

## お知らせ

- 平成22年度大学入試センター試験の実施期日
- 北海道大学における科学者の行動規範の制定
- 「北海道大学の役職員の給与等の水準(平成20年度)」の概要について
- 平成21年度の全学停電
- 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について
- 平成21年度 大学院経済学研究科・経済学部公開講座 経済学の考え方ー市場経済をどう捉えるか



第8回産学官連携推進会議(2009.6.20~21)

# 目次

## 全学ニュース

- 平成 22 年度入学者選抜要項の決定 …… 1
- 平成 23 年度以降の学部入試について—総合入試の導入— …… 4
- 平成 24 年度以降の本学における入学者選抜について …… 5
- 文部科学省・経済産業省「グローバル産学官連携拠点」に「北大リサーチ&ビジネスパーク」が選定 …… 6
- 第 7 回産学官連携功労者表彰に本学から 2 名が受賞！ …… 7
- 第 8 回産学官連携推進会議に参加 …… 9
- 第 3 回北大・九大合同フロンティア・セミナー開催 …… 10
- 単位互換とダブルディグリー第 1 回説明会を開催 …… 11
- 北大フロンティア基金 …… 12
- 平成 21 年度北海道大学新渡戸賞授与式の挙行 …… 13
- 第 14 回北海道大学教育ワークショップ(FD)を開催 …… 14
- 病原体等取扱者教育訓練を実施 …… 15
- 「化学物質取扱について」の講習会を実施 …… 15

## 部局ニュース

- 農学研究院が訓子府町との連携協定を締結 …… 16
- 水産科学研究院が北海道立工業技術センターとの連携協定を締結 …… 17
- 薬学研究院が第 16 回ファーマサイエンスフォーラム「明日の創薬と生物物理化学」を開催 …… 18
- メディア・コミュニケーション研究院公開講座「英語圏の児童向け学習図書で学ぶ英語表現」が終了 …… 19
- 歯学研究科で春の消防訓練を実施 …… 20
- 北海道大学病院院内学級で春の遠足を実施 …… 21
- GCOE 国際サマースクール 2009「北方林における生態系生態学の最前線」 …… 22
- 総合博物館土曜市民セミナー「『バッハの時代の作曲家たち』1700-1750 年の音楽模様 PART2」が開催される …… 23
- 「ストックホルム水賞」受賞者 浅野孝カリフォルニア大学名誉教授が総合博物館へ来館 …… 24
- 総合博物館で北大エコキャンパス観察会を開催 …… 25
- 開拓使仮学校地質測量生徒の写真を大学文書館で受贈 …… 26
- 第 5 回北海道大学史研究会を開催 …… 27
- イールズ事件関係資料を大学文書館で受贈 …… 28

## お知らせ

- 平成 22 年度大学入試センター試験の実施期日 …… 29
- 北海道大学における科学者の行動規範の制定 …… 30
- 「北海道大学の役職員の給与等の水準(平成 20 年度)」の概要について …… 31
- 平成 21 年度の全学停電 …… 32
- 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について …… 32
- 平成 21 年度 大学院経済学研究科・経済学部公開講座「経済学の考え方—市場経済をどう捉えるか」 …… 33

## 博士学位記授与

- 課程博士 28 人、論文博士 7 人 …… 34

## 告 辞

- 北海道大学告示第 1 号 (平成 21 年 4 月 30 日) …… 36
- 北海道大学告示第 2 号 (平成 21 年 4 月 30 日) …… 36

## 研 修

- 平成 21 年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修 …… 37

## 表 敬 訪 問

- …… 38

## 同窓会との交流

- 平成 21 年度北海道大学連合同窓会総会の開催 …… 40
- 関西同窓会一般社団法人移行記念行事— …… 41

## 諸会議の開催状況

- …… 42

## 学 内 規 程

- …… 44

## 人 事

- 新任教授紹介 …… 47
- 新任部課長等紹介 …… 48

表 紙：第 8 回産学官連携推進会議 (2009.6.20~21)

裏表紙：北の息吹<sup>㊦</sup> チシマクモマグサ (*Saxifraga merkii* var. *merkii*)

## 全学ニュース

## 平成22年度入学者選抜要項の決定

平成22年度入学者選抜要項を7月10日(金)に発表しました。一般入試では、昨年度と同様に分離分割方式で入学者選抜を実施します。

一般入試、帰国子女入試及び私費外国人留学生入試は全ての学部で実施します。

また、AO入試は、教育学部、経済学部、理学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部及び水産学部の8学部で実施します。

## 試験日程

選抜区分	出願期間	選抜期日(試験日)	合格発表日	入学手続期間	備考
A O 入 試	募集要項配布 21.6.19(金)~ 21.10.13(火) ~10.20(火)	第1次選考	書類選考 21.11.10(火)予定	21.12.11(金) ~12.17(木)	センター試験及び個別学力検査を免除する
		第2次選考	課題論文, 面接 21.11.22(日) 21.12.8(火)予定		
		第1次選考	書類選考 21.11.10(火)予定	22.2.12(金) ~2.15(月)	センター試験を課し個別学力検査を免除する
		第2次選考	課題論文, 面接 21.11.22(日) 22.1.16(土) ~1.17(日) 22.2.10(水)予定		
帰国子女入試	募集要項配布 21.6.19(金)~ 21.10.13(火) ~10.20(火)	第1次選考	書類選考 21.11.10(火)予定	21.12.11(金) ~12.17(木)	センター試験及び個別学力検査を免除する
		第2次選考	課題論文, 面接 21.11.22(日) 21.12.8(火)予定		
私費外国人留学生入試	募集要項公表 21.10.1(木) 22.1.4(月) ~1.12(火)	第1次選考	書類選考 22.2.10(水)予定	22.3.10(水) ~3.15(月)	センター試験及び個別学力検査を免除する
		第2次選考	小論文, 面接 22.2.19(金) 22.3.6(土)予定		
一般入試	募集要項配布 21.10.30(金)~ 22.1.25(月) ~2.3(水)	第1段階選抜	- 22.2.10(水)予定	22.3.10(水) ~3.15(月)	センター試験及び個別学力検査を課す
		第2段階選抜	個別学力検査 22.2.25(木) 22.3.6(土)予定		
		第1段階選抜	- 22.2.27(土)予定	22.3.24(水) ~3.27(土)	センター試験並びに個別学力検査又は小論文を課す
		第2段階選抜	個別学力検査 小論文, 面接 22.3.12(金) 22.3.20(土)予定		

募集人員

(単位:名)

学部・系・群・ 学科・専攻	募集人員	募集人員の内訳						
		一般入試		AO入試	帰国子女 入 試	私費外国人 留学生入試		
		前期日程	後期日程					
文 学 部	185	148	37	-	若	若		
教 育 学 部	50	43	5	2				
法 学 部	200	160	40	-				
経 済 学 部	190	160	20	10				
理 学 部	数 学 重 点 選 抜 群	47	34	13			-	
	物 理 重 点 選 抜 群	81	64	17			-	
	化 学 重 点 選 抜 群	81	64	17			-	
	生 物・地 学 重 点 選 抜 群	47	47	-			-	
	生 物 重 点 選 抜 群	14	-	14			-	
	数 学 科	2	-	-			2	
	物 理 学 科	5	-	-			5	
	化 学 科	10	-	-			10	
	生 物 科 学 科	5	-	-			5	
	地 球 科 学 科	8	-	-			8	
小 計	300	209	61	30				
医 学 部	医 学 系	100	85	15	-	干	干	
	保 健 学 系	看 護 学 専 攻	70	56	14			-
		放 射 線 技 術 科 学 専 攻	37	30	7			-
		検 査 技 術 科 学 専 攻	37	30	7			-
		理 学 療 法 学 専 攻	18	14	4			-
		作 業 療 法 学 専 攻	18	14	4			-
小 計	280	229	51	-				
歯 学 部	60	35	15	10	名	名		
薬 学 部	80	50	20	10				
工 学 部	応 用 理 工 系	160	119	30			11	
	情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	180	150	30			-	
	機 械 知 能 工 学 系	120	100	20			-	
	環 境 社 会 工 学 系	210	174	36			-	
小 計	670	543	116	11				
農 学 部	215	159	45	11				
獣 医 学 部	40	20	20	-				
水 産 学 部	215	164	35	16				
計	2,485	1,920	465	100				

注) 理学部生物科学科のAO入試は、生物学分野で行う。

工学部応用理工系のAO入試は、応用理工系学科の応用化学コース及び応用マテリアル工学コースで行う。

農学部のAO入試は、農業工学科及び農業経済学科で行う。

## 第2次入学試験の時間(前期日程)

【平成22年2月25日(木)】

## 文学部

教科等	時間
(諸注意)	8:40～9:00
地理歴史 数学	9:00～10:30(90分)
外国語	12:30～14:00(90分)
国語	15:00～17:00(120分)

## 教育学部, 法学部, 経済学部

教科等	時間
(諸注意)	8:40～9:00
数学	9:00～10:30(90分)
外国語	12:30～14:00(90分)
国語	15:00～17:00(120分)

理学部(数学重点選抜群, 物理重点選抜群, 化学重点選抜群, 生物・地学重点選抜群), 医学部(医学系, 保健学系), 歯学部, 薬学部, 工学部(応用理工系, 情報エレクトロニクス系, 機械知能工学系, 環境社会工学系), 農学部, 獣医学部, 水産学部

教科等	時間
(諸注意)	8:40～9:00
数学	9:00～11:00(120分)
外国語	12:30～14:00(90分)
理科	15:00～17:00(120分)

## 第2次入学試験の時間(後期日程)

【平成22年3月12日(金)】

## 文学部

教科等	時間
(諸注意)	9:10～9:30
総合問題	9:30～12:00(150分)

## 教育学部, 法学部, 経済学部

教科等	時間
(諸注意)	9:10～9:30
小論文	9:30～12:30(180分)

理学部(数学重点選抜群, 物理重点選抜群), 工学部(応用理工系, 情報エレクトロニクス系, 機械知能工学系, 環境社会工学系)

教科等	時間
(諸注意)	9:10～9:30
理科	9:30～10:30(60分)
数学	12:00～13:40(100分)

理学部(化学重点選抜群, 生物重点選抜群), 薬学部, 農学部, 水産学部

教科等	時間
(諸注意)	9:10～9:30
理科	9:30～11:30(120分)

## 医学部(医学系)

教科等	時間
(諸注意)	9:10～9:30
理科	9:30～10:30(60分)
面接	12:30～

## 医学部(保健学系)

教科等	時間
(諸注意)	9:10～9:30
小論文	9:30～11:00(90分)
面接	12:30～

## 歯学部

教科等	時間
(諸注意)	9:10～9:30
総合問題	9:30～11:00(90分)
面接	12:10～

## 獣医学部

教科等	時間
(諸注意)	9:10～9:30
理科	9:30～11:30(120分)
面接	13:15～

(学務部入試課)

# 平成23年度以降の学部入試について —総合入試の導入—

本学の学部入試は、平成7年度から学部別に募集人員を定めて実施してきましたが、受験生の未成熟な進路選択と入学後の勉学のミスマッチによる意欲の低下などへの対応策として、入試方法及び入学後の教育体制について、検討を重ねてきました。

その結果、本年3月23日（月）開催の役員会で、平成23年度から、本学へ入学する時点で学部を定めず、各学部の定員を文系・理系に大きく分けて実施する「総合入試（大きく入り入試）」を新たに導入すること、および入学後の1年間はすべての入学生が「総合教育部」で共通カリキュラムのもとに修学することを柱とする「学生募集単位および学生編成の改革に関する基本方針」を決定しました。

これを受けて、アドミッションセンターで、総合入試を含めた「平成23年度以降の学部入試」について検討し、6月17日（水）開催の入学者選抜委員会において決定するとともに、7月14日（火）に公表しました。

総合入試の特色は、本学への入学後に、自分が学びたいことを十分確認したうえで、2年次で移行する学部・学科を決定するものです。

なお、入学する時点で学部・学科を定める、従来の学部別入試も引き続き行いますが、募集単位、募集人員及び試験科目は大幅に変更となります。

募集人員及び総合入試による入学者の学部・学科移行人数については、次のとおりです。

募集人員及び総合入試による入学者の学部・学科移行人数

学部・学科・課程・専攻	入学定員	募集人員			総合入試 前期日程	総合入試による入学者の学部・学科 移行人数
		前期日程	後期日程	AO入試		
文学部 人文科学科	185	118	37	0	文系 100	30
教育学部 教育学科	50	20	10	0		20
法学部 法学課程	200	140	40	0		20
経済学部 経済学科 経営学科	100 90	140	20	0	理系 1,027	30
計	190					
理学部 数学科 物理学科 化学科 生物科学科 地球科学科	50 35 75 80 60	0	13 5 15 10 5	0 5 8 5 5	理系 1,027	229
計	300		48	23		
医学部 医学科 看護学専攻 放射線技術科学専攻 保健学科 検査技術科学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻	100 70 37 37 18 18	90 60 28 28 13 13	0 0 7 7 4 0	5 7 0 0 0 4	理系 1,027	5
計	280	232	18	16		
歯学部 歯学科	60	30	10	10	数学重点選抜群 130 物理重点選抜群 235	14
薬学部 薬科学科 薬学科	50 30	0	24	0		10
計	80				35	
工学部 応用理工系学科 情報エレクトロニクス学科 機械知能工学科 環境社会工学科	160 180 120 210	0	34 38 30 53	4 0 0 0	化学重点選抜群 235 生物重点選抜群 177 総合科学選抜群 250	56
計	670		155	4		
農学部 生物資源科学科 応用生命科学科 生物機能化学科 森林科学科 畜産科学科 農業工学科 農業経済学科	36 30 35 36 23 30 25	0	53	0	理系 1,027	162
計	215					
獣医学部 獣医学科	40	20	15	0	理系 1,027	5
水産学部 海洋生物科学科 海洋資源科学科 増殖生命科学科 資源機能化学科	54 53 54 54	105	50	20		
計	215					40
総計	2,485	805	480	73	1,127	1,127

理学部生物科学科のAO入試は、生物学分野のみ募集します。  
工学部応用理工系学科のAO入試は、応用マテリアル工学コースのみ募集します。  
総合入試(理系)の重点選抜群は、重点科目の配点を高くした選抜群ですが、学部・学科移行には影響しません。  
総合入試による入学者の学部・学科移行人数については、医学部医学科、歯学部歯学科及び薬学部薬学科を除き、変動する場合があります。

(学務部入試課)

## 平成24年度以降の本学における入学者選抜について

平成21年6月17日(水)開催の入学者選抜委員会において、平成24年度以降の大学入試センター試験の出題科目の選択範囲等の変更に伴う、本学における大学入試センター試験の受験を要する教科・科目の変更を決定しました。

この決定は、受験生や高等学校等に与える影響が大きいことから、7月10日(金)に公表しました。

変更内容は、下記のとおりです。

### 記

文学部，教育学部，法学部，経済学部及び総合入試（文系）

変更前		変更後	
教科	科目	教科	科目
地理歴史	世界史B, 「日本史B」, 「地理B」から1科目選択	地理歴史	「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」から1科目選択
公民	「倫理」, 「政治・経済」から1科目選択	公民	「倫理, 政治・経済」

理学部，医学部，歯学部，薬学部，工学部，農学部，獣医学部，水産学部及び総合入試（理系）

変更前		変更後	
教科	科目	教科	科目
地理歴史, 公民	地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）又は公民（「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」）から1科目選択	地理歴史, 公民	地理歴史（「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」）又は公民（「倫理, 政治・経済」）から1科目選択

(学務部入試課)

## 文部科学省・経済産業省「グローバル産学官連携拠点」に「北大リサーチ&ビジネスパーク」が選定

文部科学省と経済産業省が共同で実施する平成21年度「産学官連携拠点」に係る提案公募において、北海道経済連合会【産】、北海道・札幌市【官】、北海道大学【学】を提案機関とし、(財)北海道科学技術総合振興センターを調整機関、その他7機関を協力機関とする「北大リサーチ&ビジネスパーク」が、世界トップレベルの研究ポテンシャル等を活用して産学官連携活動を展開する「グローバル産学官連携拠点」として採択され、6月20日(土)、21日(日)に京都で開催された第8回産学官連携推進会議にて認定書の授与式が催され、佐伯総長が代表して拠点の概要を説明し、認定書を受け取りました。

当事業では、本学北キャンパスにおける研究機関の集積を活かし、現在進行している「未来創薬・医療イノベーション拠点形成」等のプロジェクトと、提案機関を含む11機関で構成する北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会のネットワークを有機的に連携させ、研究開発・人材育成・広域的な産学官連携活動等に、提案機関・調整機関・協力機関が連携して取り組むことにより、概ね10年後のグローバルな健康科学・医療融合拠点の形成を目指します。

なお、全国では、「地域中核産学官連携拠点」に10件(応募28件)、「グローバル産学官連携拠点」に5件(応募13件)が選定されました。

※「産学官連携拠点」とは、国が「地域中核産学官連携拠点」及び「グローバル産学官連携拠点」を選定し、それらに関係府省等の各種の施策を組み合わせて総合的・集中的に実施することにより、人材育成・基礎研究から実用化・事業化までの活動を推進し、持続的・発展的にイノベーションを創出する仕組み、「イノベーション・エコシステム」の構築を図るための取り組みを支援するものです。

※「グローバル産学官連携拠点」とは、「産学官連携拠点」の中でも、世界トップクラスの質と規模の研究者、研究インフラの集積等、国際的に優れた研究開発ポテンシャルを有し、地域の特長や強みを活かしつつ、多様な分野や融合領域において産学官連携活動が行われる拠点です。



産学官連携推進会議で  
拠点概要を説明する佐伯総長



認定書を受け取る佐伯総長

(学術国際部産学連携・研究推進課)



## 第7回産学官連携功労者表彰に本学から2名が受賞！

本年6月20日(土)、21日(日)に京都で開催された「産学官連携推進会議」にて、本学の2つのグループが、「産学官連携功労者表彰」を受賞し、表彰されました。

また、野田聖子科学技術政策担当大臣が受賞者のブースを訪れ、受賞者の説明に熱心に耳を傾けていました。

受賞内容は、次のとおりです。

### 【科学技術政策担当大臣賞】

○「EBウイルスを用いたヒトリンパ球由来抗体の大量作製技術」の開発

受賞者：高田賢藏 北海道大学遺伝子病制御研究所 教授／株式会社イーバック代表取締役会長  
土井尚人 株式会社イーバック代表取締役社長  
独立行政法人産業技術総合研究所北海道センター

受賞理由：(株)イーバックは、北海道大学高田賢藏教授のEBウイルスに関する研究成果を基に、高品質な医薬品向け完全ヒト抗体の大量作成技術を開発した。マウスを用いる従来手法に比べて臨床時の副作用が少なく、がんやリウマチなどの幅広い疾患に効果的な新薬開発への応用が期待される。同社は平成15年から産総研認定ベンチャーとなり、安全衛生基準等に則ったバイオ系実験室と研究開発における高いコンプライアンス確保に努めた。また、同社は学官の協力を得ながら抗体作製技術の高度化を進め、平成20年にドイツ企業と大規模ライセンス契約を締結した。「学」の技術を基に、「官」の支援を得つつ、「産」が挑戦することで、極めて優れたベンチャーを生み出した成功例として表彰に値する。

### 【日本学術会議会長賞】

○「大規模糖鎖解析装置及び疾患マーカー探索技術」の開発

受賞者：西村紳一郎 北海道大学大学院 先端生命科学研究院 教授  
(兼 産業技術総合研究所 招聘研究員)  
近藤裕郷 塩野義製薬株式会社 執行役員医薬研究本部長  
システム・インスツルメンツ株式会社

受賞理由：塩野義製薬(株)は北海道大学との共同研究施設「シオノギ創薬イノベーションセンター」を開設し、新規創薬標的分子の解析や独創的な創薬技術の開発を実施している。国立大学法人の敷地内に民間企業の研究施設が建設されたのは全国初である。また、システム・インスツルメンツ(株)と北大は共同で、世界初の糖鎖自動解析装置「SweetBlot」を開発し、従来の数百倍の処理速度で、2倍以上の種類の糖鎖の検出を可能とした。さらに北大はこの装置を用いて、高い精度で健常者とがん患者を区別できる新規糖鎖バイオマーカーを、世界に先駆けて発見した。国内外の製薬、診断薬企業の注目を集めており、新たな連携から診断薬開発が促進されることが期待される。

全学ニュース

※ なお、本年2月まで本学エネルギー変換マテリアル研究センター教授であった、林潤一郎九州大学教授らの「木質バイオマスを全量燃料にするパイロコッキング技術の開発」も、環境大臣賞を受賞しました。

※ 「産学官連携功労者表彰」とは、大学、公的研究機関、企業等の産学官連携活動におい

て、大きな成果を収め、また、先導的な取組を行う等、産学官連携の推進に多大な貢献をした優れた成功事例に関し、その功績を称えることにより、我が国の産学官連携活動の更なる進展に寄与することを目的とし、平成15年度より毎年1回行われているもので、今回が7回目になります。



表彰される高田教授



表彰される西村教授



表彰式の様子

高田教授（右）、土井イーベック社長（中央）、北野邦尋産業技術総合研究所北海道センター長（左）



表彰式の様子

西村教授（右）、近藤塩野義製薬執行役員、濱田和幸システム・インストルメンツ取締役技術部長（左）



野田科学技術政策担当大臣  
に説明する高田教授



野田科学技術政策担当大臣  
に説明する西村教授

（学術国際部産学連携・研究推進課）

## 第8回産学官連携推進会議に参加

6月20日(土)、21日(日)に国立京都国際会館において、約4,500人が参加し、第8回産学官連携推進会議が開催されました。

本会議は、産学官連携を担う第一線のリーダーや実務経験者等が一堂に会し、さまざまな事例の共有や課題の抽出、情報交換、対話・交流を通じて、産学官連携の新たな展開に向けた議論を深め、あるべき姿についての提言を取りまとめることを目的にしています。

会議の部では、基調講演、特別講演、分科会等が行われ、パネリストによる問題提起と活発な討論が繰り広げられました。

本会議場に隣接したイベントホールでは、会議と並行して展示会が行われ、本学を含む全国

各地から265団体のブースが立ち並び、各大学等の研究成果を競い合いました。

本学においては、創成研究機構／産学連携本部、人材育成本部、未来創薬・医療イノベーション拠点形成事業、獣医学研究科／人獣共通感染症リサーチセンター、触媒化学研究センター／工学研究科、エネルギー変換マテリアル研究センター、水産科学研究所、情報科学研究科から10ブースを出展しました。

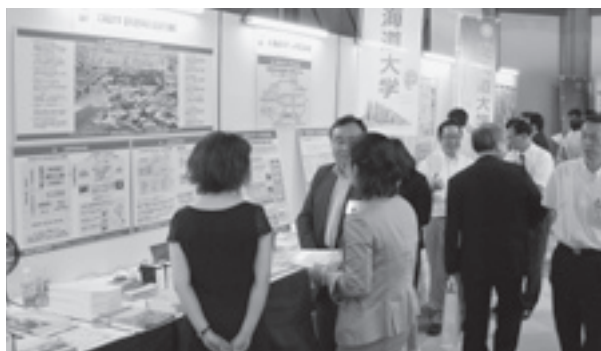
本学が参画する「北大リサーチ&ビジネスパーク協議会」も隣接した本学の展示ブースには、松田岩夫元科学技術政策担当大臣の他、多数の来場者が訪れ、各担当者は、熱心に研究内容を説明し、盛況のうちに閉会しました。



本学を訪れた松田元科学技術政策担当大臣(左)と佐伯総長



松田元科学技術政策担当大臣(右)に「未来創薬・医療イノベーション拠点形成事業」を説明する白土博樹医学研究科教授



会場風景



来場者へ研究成果紹介

(学術国際部産学連携・研究推進課)

## 第3回北大・九大合同フロンティア・セミナー開催

6月4日（木）、東京都千代田区丸の内のレストランコンファレンスにおいて、第3回「北大・九大合同フロンティア・セミナー」を、「先端医療」をテーマに開催しました。

いわゆる「新型インフルエンザ」感染報道等により、参加者の減少が危ぶまれましたが、当日は、首都圏の企業や官庁などで活躍している両大学のOBやOGの皆様をはじめとして、115名の方に参加いただき、過去最高の出席者数となりました。



講演中の久下教授

最初に登壇した本学アイソトープ総合センターの久下裕司教授は、「機能画像診断の最近の話題」と題し、生体内の分子や細胞の動きを可視化する技術としての「分子イメージング」が注目されており、循環器疾患、とりわけ動脈硬化及び心不全を例に、その病態把握や個別治療に同技術が大きく貢献しうるものであることを紹介されました。

次に、九州大学大学院医学研究院の砂川賢二教授は、「衝撃のバイオニック医学～変貌する21世紀の心臓病治療の最前線」と題して、医療技術の進んだ現代においても5年生存率が50%に止まる心不全の治療について、先端生命科学と先端工学を融合させた新たな治療戦略「バイオニック医学」が注目を集めており、循環調節系の首座である脳を中心とした神経調節系に工学的な手法を用いて介入（治療）を行うことにより、病態を克服することができるということについてわかりやすく説明されました。

総合討論では、本学アイソトープ総合センター長の玉木長良教授がコーディネーターとな



講演を聞き入る参加者

り、講演を行った本学久下教授及び九州大学砂川教授がコメンテーターとなって、講演された内容に対する質問に両講師が応える形で進められました。



総合討論風景

今回のセミナーは、前回同様有料で開催し、休憩中に軽食、オードブルとソフトドリンク、アルコールを提供しました。休憩後の総合討論では、両先生方の、知的興奮を誘った講演内容に出席者からの質問も活発になり、終了後も講演者が対応する一幕もあり、盛会裏に終了しました。

なお、次回の第4回「九大・北大合同フロンティアセミナー」は、平成21年10月20日（火）18時30分から、今回と同じく東京ステーションコンファレンスにて「異分野の基礎研究のつながりによる新たな知見（仮）」をテーマに開催いたします。詳細が決まりましたら本学ホームページ等で改めてご紹介いたしますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（学術国際部研究協力課）

## 単位互換とダブルディグリー第1回説明会を開催

6月30日(火)に、情報教育館多目的中講義室にて、国際交流室と教育改革室主催の「単位互換とダブルディグリー第1回説明会」を開催しました。当日は教職員116名の参加があり、函館キャンパスには、ビデオ会議システム(ポリコム)を利用して説明会の模様が中継されました。

説明会では、はじめに本堂理事・副学長と脇田理事・副学長が本学の国際化に関するビジョンについて挨拶した後、国際企画課と教務課より、国際化に向けての取組と単位互換・ダブルディグリーに関する指針について説明を行いました。次いで、今年1月から3月にかけて実施された国内外ダブルディグリー訪問調査に参加した、小早川護名誉教授、文学研究科 新田孝彦教授、経済学研究科 高井哲彦准教授が、

ヨーロッパと国内大学のダブルディグリー・プログラムなどの現状について講演しました。最後に、国際企画課国際教育連携支援チームより、チームの紹介と今年度の事業計画及びコンサルティング業務について説明し、質疑応答を行いました。また、参加者にアンケートを実施し、調査結果は今後の業務で活用する予定です。

今年度、国際教育連携支援チームは、単位互換、ダブルディグリー、英語による授業のFDを3本柱として、関連資料の作成と部局への資料提供、英語による授業のFDプログラム開発、希望部局での個別説明会開催などを、適宜、学務部教務課と連携して進めていく予定です。上記に関するお問い合わせは、国際企画課国際教育連携支援チームまでお願いいたします。

お問い合わせ先：shien@general.hokudai.ac.jp



会場の様子



小早川名誉教授の講演



新田教授の講演



高井准教授の講演

(学術国際部国際企画課)

## 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、法人化後の厳しい財政状況の下、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自律性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしていますが、平成18年から平成23年までの5年間で15億円から25億円の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

### 【北大フロンティア基金情報】

基金累計額 (6月30日現在)

8,336件 1,307,375,739円

教職員の寄附率 21.9% (850件 / 3,874人)

### 〈6月のご寄附状況〉

法人等2社、個人1,100名の方々から7,851,800円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲載、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

### 寄附者ご芳名

(個人)

新木英一郎, 飯谷 欣三, 鏑山 賢一, 岩原 英博, 大畑 昇, 奥山 克史, 小内 透,  
加我 順一, 角 幸博, 川俣 茂, 城戸 啓造, 白石 重政, 杉浦 秀一, 瀬名波栄潤,  
高井 潔司, 高橋 光彦, 武川利代己, 辻谷 強司, 土家 琢磨, 寺澤 睦, 寺嶋 延彦,  
所 伸一, 豊田 威信, 中沢 洋, 中村 勝博, 永山 政一, 名和 豊春, 野坂 政司,  
花岡 建実, 早坂 孝一, 堀江 醇, 三浦 敏明, 安井 敬一, 山崎 賢司, 山田 寿郎,  
山本 佳之, 吉田 広志

### 銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

(個人)

新木英一郎, 永山 政一, 名和 豊春

### ご寄附のお申し込み方法

#### ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。

北大ホームページ > 教職員向け > 学内限定情報・システム > 北大フロンティア基金のご案内(申込書)

<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/fund.pdf>

#### ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡しします。

#### ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入していただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ ————— 基金事務室 (事務局 1階・学内電話 2012 / 2017)

(基金事務室)

## 平成21年度北海道大学新渡戸賞授与式の挙行

去る6月15日(月)、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、平成21年度北海道大学新渡戸賞授与式が行われました。

新渡戸賞は優秀な学生を育成することを目的として平成17年に設けられた顕彰制度で、学部1年次における学業成績が優秀で、他の学生の模範になると認められる2年次生に対して、奨励金が給付されます。今回の受賞者は89名です。

授与式には、脇田副学長、長澤学務部長の列席のもと、脇田副学長から受賞者代表へ賞状が授与されました。

続いて脇田副学長から受賞者に向けて「偉大な先輩の名を冠した賞を授与されたことは、とても名誉なことです。これを糧により一層研鑽をしていただくとともに、北海道大学の四つの理念『フロンティア精神』・『国際性の涵養』・『全人教育』・『実学の重視』の一つは叶えるよう活躍いただきたい。」と賞賛と激励の挨拶がありました。



脇田副学長から賞状を授与



授与式の様子

(学務部学生支援課)

## 第14回北海道大学教育ワークショップ(FD)を開催

高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部が中心となって企画・運営している北海道大学教育ワークショップが、「授業を変えるe-ラーニング」をテーマに6月5日(金)及び6日(土)の両日、奈井江町の「農業構造改善センター」を会場に合宿形式で開催されました。

このワークショップは、本学のファカルティディベロップメント(FD)の一環として平成10年度から実施しているものです。

今回は本学教員32名のほか、当日の講師等を含めた総勢41名で実施しました。



教育ワークショップ参加者

当日は、協田理事・副学長からの挨拶があり、この後、「FDの目的と意義」のミニレクチャーから始まり、教育法の基礎と新しい教育手法について今回のワークショップのテーマである「e-ラーニング」を踏まえた活発な研修会が行われました。

ワークショップは、4グループに分かれてのグループ討論、成果発表、全体討論を1つのセットにした3つのセッションから構成され、授業を具体的に作ることを通して、授業の目的、内容(方略)、評価方法の3つの基本的要素を体験的に学ぶことを目的に企画されました。

### グループ作業内容

多様な分野の専門家が揃うように編成されたグループによる全学教育科目の設計を、下記のステップにより行いました。

- 1) 授業科目名と目標の設定
- 2) 目標の手直しと方略
- 3) 方略の手直しと評価

### グループ作業で設計した科目の類型

次のA～Dの4グループに分かれ単位の実質化を目指すことに主眼を置いた科目設計を行い、その過程で、教育の基本的要素、授業設計の実際、授業方法の改善、評価法などについて学びました。

### 各グループが授業設計する科目の型：

- A 一般教育演習(学生数20, 90分の授業を週1回で15週)
- B 一般教育演習(学生数20, 集中授業5日間)
- C 総合科目(大講堂, 90分の授業を週1回で15週, 6名程度の講師が交代で行う。)
- D 大学院共通授業(90分の授業を週1回で15週, 6名程度の講師が交代で行う。)



グループ作業の様子

グループ作業は、リーダー、発表者、発表用パワーポイント作成、記録の役割分担を決めて進められ、定められた時間内にスケジュールを次々とこなしていきました。

各グループでは、それぞれ工夫を凝らした授業を設計され、発表の場では様々な質問や議論がなされ活気に満ちていました。

予定された研修が全て終了し、最後に参加者全員による感想や意見が述べられましたが、「実際の授業科目に係る授業設計から成績評価までの一連のプロセスについて学べて、大変参考になった。」、「他研究科等の教員と学問分野を超えて議論ができ、親睦を深めることができた。」、「シラバス作成の重要性を確認できた。」など、意義深かったとの意見等が多く出されました。

2日間を通じて全員が最後まで真剣に取り組み、水準の高い見識のあるグループ討論、完成度の高いシラバスが作成され、内容のある有意義な研修会でした。

ワークショップの詳細については、9月発行のセンターニュースに掲載される予定となっています。

なお、本ワークショップは年2回実施しており、第2回目は11月6～7日に実施する予定です。

(高等教育機能開発総合センター)



## 病原体等取扱者教育訓練を実施

去る6月9日(火)に病原体等の取扱者を対象にした教育訓練を、クラーク会館講堂において開催いたしました。

この教育訓練は、病原体等の取扱者に、関係法令、本学規程等の基礎的な知識及び適正な取扱い方法等の基本的事項について理解していただくことを目的としたもので、本学規程で受講が義務付けられているものです。

今回の教育訓練では、病原体等安全管理委



講演を行う高島教授

員会委員長である、獣医学研究科 高島郁夫教授、同委員会委員の歯学研究科 柴田健一郎教授、獣医学研究科 荏和宏明准教授、遺伝子病制御研究所 森松正美准教授、獣医学研究科 大橋和彦教授、医学研究科 有川二郎教授に講義いただきました。

職員・学生合わせて約320名が出席し、6名の講師による講演に熱心に聴き入っていました。



会場の様子

(学術国際部研究協力課)

## 「化学物質取扱について」の講習会を実施

去る7月8日(水)に工学研究科等の化学物質取扱従事者を対象にした、「化学物質取扱について」の講習会を工学部B21教室にて開催しました。

この講習会は、今年3月に発行した「化学物質取扱の手引」を用いた安全講習で、今年度より化学物質取扱従事者に、関係法令、本学規程等の基礎的な知識、「化学物質管理システム」利用及び実験するにあたっての注意事項等について理解してもらうことを目的としたもので



講義を行う澤村センター長

す。

講習会は、環境保全センターの澤村センター長が講義しました。

7月14日(火)に水産科学研究院(函館キャンパス)、7月22日(水)に理学研究院等、8月以降に農学研究院、医学研究科等、薬学研究院、北キャンパス、その他の従事者向けの講習会を8回順次行います。

化学物質取扱従事者はぜひ受講してください。



函館キャンパス会場の様子

(環境保全センター)

## 部局ニュース

# 農学研究院が訓子府町との連携協定を締結

農学研究院（農学院・農学部）と訓子府町は、農学関連技術の発展、農村資源の活用、地域の持続的発展、科学技術・文化の振興、人的交流・人材育成などに協力して取り組むため、6月9日（火）に訓子府町役場において連携協定を締結しました。

訓子府町と本研究院との交流は、平成4年に北海道地域農業研究所と共同で、訓子府町の農業振興計画の策定に、坂下明彦教授など農業経済学分野のスタッフが参画したことから始まりました。その後も主にタマネギの生産・流通、減農薬栽培等のフィールド調査が行われ、多数の博士論文・修士論文・卒業論文の成果が出されており、その成果を町及び農協にフィードバックしてきました。

調印式では、菊池一春 訓子府町長、上田一

郎 農学研究院長の挨拶に続き、来賓として、西川孝範 きたみらい農業協同組合代表理事組合長の挨拶があり、坂下教授からの協定内容の説明の後、協定書の調印が行われました。

また当日、昨年10月から開始している文部科学省戦略的大学連携支援事業において、酪農学園大学・帯広畜産大学・北海道大学の3大学共同で設置している地域拠点型農学エクステンションセンターの訓子府サテライトの看板除幕式が、きたみらい農業協同組合訓子府地区事務所で行われました。

なお、同町と当研究院との連携協定は、富良野市、栗山町、標津町及び旭川市に続き5市町目となり、ますます地域と密着した教育研究活動が期待されています。



協定書調印後、握手する菊池訓子府町長（左）と上田農学研究院長



地域拠点型農学エクステンションセンター 訓子府サテライトの看板除幕式風景

（農学院・農学研究院・農学部）

## 水産科学研究院が北海道立工業技術センターとの連携協定を締結

去る6月10日(水)、水産科学研究院は、北海道立工業技術センターとの連携・協力に関する協定書の調印式を函館キャンパスで行いました。

両機関は平成15年から文部科学省の都市エリア産学官連携促進事業に参画し、ガゴメ昆布やイカ墨を使った商品の開発で大きな成果を挙げてきました。同事業は本年3月に事業が終了し、これまで築いた個人レベルのつながりを組織的なものとして継続させるため、この度の協定締結の運びとなりました。

協定事項は共同研究の推進や人材交流のほか、施設や機器の相互利用も進めていく予定で、学生にとって産業に近い場所で学ぶことはよい経験になることを期待します。

函館市は現在、「函館国際水産・海洋都市構想」を進めており、三浦 北海道立工業技術センター長は「双方が連携を強化することで構想の起爆剤になれば」と述べられ、原研究院長も「連携によって地域産業の可能性を広げていきたい」としており、この点で今後、地域の活性化が大いに期待されるところです。



協定書を手にとり地域産業の発展を誓う三浦 北海道立工業技術センター長(左)と原研究院長

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

## 薬学研究院が第16回ファーマサイエンスフォーラム 「明日の創薬と生物物理化学」を開催

薬学研究院では、創薬及び生命科学分野の一流の研究者を招聘し、講演と活発な議論の場を提供するとともに研究者間の交流を深めることを目的に、毎年、ファーマサイエンスフォーラムを開催しています。今後の創薬サイエンスの進展には、生物物理学的アプローチの重要性が極めて大きくなることに鑑み、今年度は「明日の創薬と生物物理化学」と題する第16回のフォーラムを、去る6月11日（木）、薬学部臨床薬学講義室に於いて開催しました。

NMR、X線結晶解析、あるいは計算化学を駆使して、創薬化学・生命科学領域の最前線で

活躍されている若手研究者をお招きしました。

研究院長の挨拶の後、6名の研究者に順次ご講演頂きました。本研究院の教員・大学院生の他、学内を中心に130名程の参加者で会場は満席に近い状況の中、大変活発な質疑応答・議論が繰り広げられました。講演者の方々には最新の成果を大変平明にご紹介して頂きましたので、物理化学を専門としない聴衆も、生物物理化学の急速な進歩を間近に感じるとともに、その創薬化学・生命科学における意義を十分に理解したようです。

### プログラム

- 13：00～13：50 オートファジーの構造生物学 野田展生（北海道大学大学院薬学研究院）  
 13：50～14：40 創薬加速基盤技術としてのNMR相互作用解析  
 手法の開発と応用  
 高橋栄夫（産業技術総合研究所BIRC）  
 14：40～15：30 計算機を活用した抗ウイルス薬の開発 星野忠次（千葉大学大学院薬学研究院）  
 15：45～16：35 ホタル・ルシフェラーゼによる発光色制御機構  
 中津 亨（京都大学大学院薬学研究院）  
 16：35～17：25 溶液理論と大規模分子シミュレーションの融合による機能性分子集合系の自由エネルギー解析 松林伸幸（京都大学化学研究所）  
 17：25～18：15 NMRを使った細胞内タンパク質の構造観察  
 朽尾豪人（京都大学大学院工学研究院）

主 催：北海道大学大学院薬学研究院／日本薬学会北海道支部



研究院長による開会の挨拶



講演風景



質疑風景

（薬学研究院・薬学部）

## メディア・コミュニケーション研究院公開講座 「英語圏の児童向け学習図書で学ぶ英語表現」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、平成21年度公開講座「英語圏の児童向け学習図書で学ぶ英語表現」を5月11日(月)から6月29日(月)まで、毎週月曜日に8回にわたり実施しました。

英語圏で出版された絵や写真の豊富な児童向け学習図書は、実用的な日常表現が学べる良い教材であることから、本講座では、毎回異なるシリーズを取り上げ、実例を見ながら、教科書で習った英語とは一味違う表現を学びました。

中学校レベルの易しい単語で書かれた英語圏の本を手にするのは初めてという人も多く、実際に読んでみて気づいたことを書き留めるなど、受講生一人一人が熱心に学習している様子がうかがえました。毎回講義の後には、講師へ積極的に質問をする姿も見られ、意欲的に取り組んでいる受講生の姿が印象的でした。

講義最終日には、6回以上出席した受講生26名に、担当講師から修了証書が手渡され、本講座は盛況のうちに終了することができました。



熱心に講師の話聞く受講生



受講生への修了証書授与

(国際広報メディア・観光学院,  
メディア・コミュニケーション研究院)

## 歯学研究科で春の消防訓練を実施

歯学研究科では6月30日（火）に消防設備専門家の協力を得て、消防訓練（避難訓練及び消火訓練）を実施しました。

訓練は、D棟研究科長室からの出火を想定し、学生・職員他約70名が参加して行われました。

火災発生後、直ちに川浪研究科長が隊長となる自衛消防隊が出動し、「通報連絡係、避難誘導係、消火係」の各担当が、現場の確認、消防署への通報、非常放送、避難者誘導、消火活動等実践さながらの訓練が行われました。

訓練終了後、研究科長から「実際の火災の際はとまどうことがあると思うが、今回のこの経験を役立たせて欲しい。また学生がきちんと消火器の使い方を覚えていることがいざという時に非常に役に立つ」との講評がありました。

また、消火器（水消火器）を用いた消火訓練が行われました。実際に消火器を使用する場合は、姿勢を低くし、火元の手前から消火することが煙対策になる等消火器の用途に応じた取り扱い方法の確認とともに、訓練の重要性や日頃の防災意識の見直しを図ることができました。



講評を受ける学生



消火器取扱説明

（歯学研究科・歯学部）

## 北海道大学病院院内学級で春の遠足を実施

北海道大学病院院内学級では、6月11日(木)に春の遠足を実施しました。今回の遠足のねらいは、屋外に出かけることにより生活経験の拡大や心理的解放を図るとともに、集団生活の中での人間関係を深めることです。

当日はあいにくの雨模様でしたが、遠足には小学生5名、中学生1名の6名が参加し、中学校教頭、教員、本院から医師、看護師、事務職員が付き添い、総勢15名がスクールバスで北大から目的地の札幌市下水道科学館(札幌市北区)に向かいました。

科学館では、最初に全員で立体ミニシアターを体験し、その後、様々な展示等を見学したり、下水道クイズに挑戦したりしました。約1時間30分程度の見学でしたが、札幌市の下水道の仕組みや、水の大切さを楽しみながら学ぶことができました。

見学の後は、友達や先生と楽しくおしゃべりをしながらお菓子を食べ、休憩の後、科学館を後にしました。



立体ミニシアターの説明を受ける子ども達



下水道の歴史を学ぶ子ども達

(北海道大学病院)

## GCOE国際サマースクール2009 「北方林における生態系生態学の最前線」

環境科学院では、6月14日（日）から20日（土）に、グローバルCOEプログラム「統合フィールド環境科学の教育研究拠点形成」（環境科学院・農学院環境資源学専攻）主催の国際サマースクール2009「北方林における生態系生態学の最前線」を北方生物圏フィールド科学センター雨龍・中川・天塩研究林および札幌キャンパスにて開催し、北海道大学および海外から博士課程の大学院生19名が参加しました。（うち海外からは国際公募により、中国、インド、バングラディッシュ、マレーシア、フィリピン、オーストラリア、英国から12名が参加）

本サマースクールの目的は、生態系生態学に関するフィールドでの観測手法を習得するとともに、様々な国から集まった参加者が協同で研究計画を立案したり、既往研究をレビューしたりすることにより、統合フィールド環境科学に関する国際的視野を持つ研究者を育成することにあります。

初日には、ガイダンスとポスターセッション、そして米国より招聘したMyron Mitchell教授（ニューヨーク州立大学環境科学森林学部、SUNY-ESF）による講義「温帯林集水域：大気汚染と気候変動に対する応答」が学术交流会館において行われました。翌日からは道北の研究林に場所を移し、「北方林における群集構造と機能」、「土壌プロセスと生物地球化学」、「ランドスケープにおける生態系機能と構造の空間変化」、「森林集水域における炭素循環と森林施業」というトピックについてフィールドセッションやグループ討論を実施しました。そして、各調査地の概要や研究器具の説明後、参加者は蚊やブヨと格闘しながら森林をじっくりと観察し、北の森林でどのような研究が実施可

能なのかを考えました。各自の調査地の植生とは大きく異なるためか、多くの参加者はこの地域の森林に密生するササに興味を示していました。

また、設定された大きなテーマに基づいて、各参加者が森林の中で自由に研究課題を提案し、グループごとにそれらの課題に対する作業仮説を立て、それを検証するためのアプローチを考えると、共同研究のプロポーザル作成のトレーニングが行われました。そこでは、3～4名のグループに分かれ、各トピックに関する研究計画を立案し、グループ発表を行いました。参加者は非常に積極的で、活発なグループ討論、白熱した質疑応答が展開されました。課題や仮説の妥当性・新規性や、検証するための研究方法については検討が必要な部分が残されたものの、多くの参加者は母国語ではない英会話や専門性の違い、時間の制約に苦勞しつつも、研究計画立案の基本についてそれぞれに学んでいました。



林内を観察しながらディスカッションする参加者



最終日は遠友学舎にて、各研究テーマについて既往研究を事前にレビューし、それをグループごとに統合して発表しました。

参加者は、本サマースクールを通し、英語でのグループ討論、発表・議論に慣れ、自身のスキルアップにつながったとともに研究者間の信頼関係が構築できました。本サマースクール終了後、参加者からは「この模擬体験が自分の研究の役に立った」、「参加してよかった」との声が多数寄せられました。この交流が今後も続き、将来のフィールド環境科学における国際的連携や共同研究の発展につながることを期待されます。



集合写真

(環境科学院・地球環境科学研究院)

## 総合博物館土曜市民セミナー「『バッハの時代の作曲家たち』1700-1750年の音楽模様 PART2」が開催される

総合博物館では6月13日(土)土曜市民セミナー「『バッハの時代の作曲家たち』1700-1750年の音楽模様 part 2」を開催しました。講師はチェンバロ奏者 明楽みゆき 氏です。

今年年1月に行ったセミナーの第二弾。明楽さんご自身の美しいフレッシュタイプのチェンバロと、北大のポプラチェンバロを二つ並べての演奏付きセミナーでした。ルイ14世やフリードリッヒ大王に象徴される封建君主、協会の強い権力、力を持った市民階級の三本柱の上に展開されたドラマチックなバロック音楽の紹介がチェンバロ演奏とともになされました。J.S.バッハとイギリス、フランス、ドイツ、イタリアで華々しく活躍した才能あふれる音楽家

たちの個性が演奏とともに語られ、音楽の旋律とともに300年前の音楽模様を楽しみ学べる贅沢なレクチャーコンサートとなりました。

当日は約70名の市民が参加し、熱心に受講していました。



講演の様子

(総合博物館)

## 「ストックホルム水賞」受賞者 浅野孝カリフォルニア大学名誉教授が総合博物館へ来館

総合博物館に入って1階を進むと左側2番目に「世界への視点」と名付けられた部屋があり、国際的に活躍された本学出身者を紹介しています。そこに「ストックホルム水賞」のコーナーが設けられていて、本学出身のお二人の受賞者が紹介されています。

そのお一人、2001（平成13）年の受賞者浅野孝カリフォルニア大学名誉教授が、北大農学部旧農芸化学科を1959（昭和34）年に卒業した同窓生たち16人と一緒に総合博物館を6月25日（木）に来館されました。

浅野先生は水資源工学の分野で世界的な権威として、今年春の叙勲で瑞宝重光章を受章されました。そのお祝いを兼ねて同窓生たちが「卒業50周年同窓会」を北海道大学構内で開き、ポプラ並木を見学された後、浅野先生の「ストックホルム水賞」が展示されている総合博物館を訪問されたというわけです。この同窓会の様子は6月26日付けの北海道新聞に写真入りで掲載

されました。来館された同窓生たちは、北大の歴史展示の部屋に特に興味をお持ちになり、展示物を見ながら昔話に花を咲かせていらっしゃいました。「知との対話」の部屋では、奥の壁に並んだ榆陵研究者群像の中にかつての恩師の写真を見つけ、その授業の様子を懐かしく語っておられた方も幾人いらっしゃいました。幹事のお一人、但野利秋北海道大学名誉教授は「次回は喜寿を祝って北大で再会を」と話されていました。



館長の案内で館内をご覧になる  
浅野孝カリフォルニア大学名誉教授（前列右）

（総合博物館）

## 総合博物館で北大エコキャンパス観察会を開催

総合博物館では、6月20日(土)、サクシュコトニ川沿いの遺跡・花・虫を観察する一般市民向けのキャンパスツアーを行いました。これは毎年6月、環境月間関連行事として総合博物館の考古・昆虫・植物担当の教員や資料部研究員が講師役を務めて行っているものです。サクシュコトニ川に沿ってキャンパスを歩きながら、遺跡を観察し往時の人々の生活に思いをはせ、また川沿いに見られる花や虫を観察し、北大エコキャンパスの自然の豊かさを実感するツアーです。これまでは当日参加でしたが、今年度から事前申し込み制とし、少人数できめ細かい解説ができる体制を整えました。

当日は総合博物館正面玄関前に集合し、館内のキャンパス模型をみながら観察コースの全容を説明。その後、人文・社会科学総合教育研究棟内に展示されている地層断面のはぎ取り標本を見ながら、北大構内の遺跡について解説を受

けました。次に中央道路沿いに植栽されたクロビイタヤやクラーク像の台座に掘られたオオオニバスのレリーフを観察。サクシュコトニ川沿いに、中央ローンから図書館裏、テニスコート脇の遊歩道を進みました。ここではネグンドカエデやカツラの観察ができました。弓道場周辺にはドクニンジンやイワミツバといった外来植物が侵入しており、キャンパス内の在来植生が大きな影響を受けつつあることも実感しました。大野池の脇を通り、中央食堂とファカルティハウス・エンレイソウ西側に鬱蒼と茂る森を通過。工学部構内を進んで遺跡保存庭園を目指しました。道中、昆虫採集の方法であるスウィーピング、ビーティングの実演・解説をしながら、ここで擦文文化の堅穴住居址を観察し、当時の生活に思いをはせました。

参加者は14名。13時30分に総合博物館を出発、16時頃に第2農場付近で解散しました。



(総合博物館)

## 開拓使仮学校地質測量生徒の写真を大学文書館で受贈

6月15日(月)、大学文書館では、開拓使仮学校・女学校に関する資料調査にいらした河内山雅郎氏から、ベンジャミン・スミス・ライマンの下で学んでいた開拓使仮学校地質測量生徒の写真1点を寄贈いただきました。この写真は、生徒のひとりで、河内山雅郎氏の大伯父にあたる稲垣徹之進の旧蔵資料と考えられるものです。

ライマンは1872～1876年、開拓使のお雇い外国人教師として北海道全島の地形・地質調査を行ないました。その際、日本人の若者十数名を地質測量生徒として随行させて調査助手にすると共に、地質・鉱山技術者に育て上げました。1876(明治9)年、ライマンが調査を基に作成した日本最初の本格的な地質地図である「日本蝦夷地質要略之図」には、作成補助者として稲垣

徹之進の名前も記載されています。

稲垣徹之進は、ライマンの帰国後、九州筑豊炭田の起業家安川敬一郎の下で近代日本における鉱山技術者のパイオニアのひとりとして活躍しました。その後、筑豊石炭鉱業会第3代総長や、福岡県嘉穂郡颯田村(現在の飯塚市)の明治炭坑株式会社の専務取締役を務めるなど、筑豊石炭鉱業界で重きをなしました。また、稲垣徹之進は、開拓使仮学校(札幌農学校の前身校)に併置された女学校生徒であった神尾榮と結婚しており、北海道と北海道大学に縁の深い人物です。

この度、受贈した写真は、北海道大学へと連なる最も古い時期の貴重な歴史的資料です。大学文書館において大切に保管し、広く活用してまいります。



開拓使仮学校地質測量生徒(1876年頃)

後列左から桑田知明、賀田貞一、山内徳三郎、坂市太郎、安達仁造  
前列左から島田純一、杉浦(高橋)讓三、山際永吾、稲垣徹之進、西山正吾

(大学文書館)

## 第5回北海道大学史研究会を開催

6月22日(月), 大学文書館主催により, 第5回北海道大学史研究会を, 附属図書館大会議室で開催しました。

当日は, 「札幌農学校第23期生川嶋一郎の学生生活一学業・ロシア文学・遠友夜学校」と題して, 山本美穂子大学文書館員が報告を行ない, 川嶋昭二氏(川嶋一郎子息, 1952年理学部卒業)にコメントをいただきました。川嶋一郎家の郷里(岩手県二戸市福岡)の方々や関係者をはじめ, 学内外から49名の参加がありました。



コメントする川嶋昭二氏

報告の後には, 専攻分野(畜産学)と卒業後の進路の関係, 日露戦争期におけるトルストイへの傾倒, 非戦論をめぐる学校内の人物描写, 札幌街並みの記述, 学生生活の経済的状況など, 多岐にわたるテーマについて, 川嶋昭二氏のコメントを交えながら, 質疑応答が行われました。



研究会の様子

山本報告では, 川嶋一郎(1900年札幌農学校予修科入学, 1906年同校本科卒業)が札幌農学校在学中に書き綴った日記の内容をもとに, 川嶋一郎がどのような学生生活を過ごしたか, まず, 学業の面から, 講義・実習・実地研究旅行の説明がありました。続いて, 川嶋一郎・足助素一を中心として, 有島武郎(第19期生)の後輩たちの交友関係, ロシア文学の受容経路と内容, 遠友夜学校での熱心な活動などについて報告がありました。



川嶋一郎日記と翻刻書(1904年2月23日条)

なお, 大学文書館では, 川嶋一郎日記の全文翻刻を行ない, 『〈翻刻〉札幌農学校第23期生川嶋一郎日記(1899~1904年)』(北海道大学大学文書館資料叢書3)として刊行しました。是非, ご覧ください。

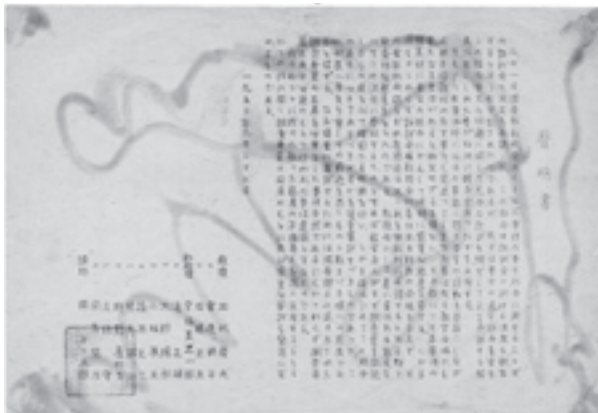
(大学文書館)

## イールズ事件関係資料を大学文書館で受贈

6月23日（火），大学文書館では，和氣和民氏（元医療短期大学部教授）から，イールズ事件関係資料2点を寄贈いただきました。

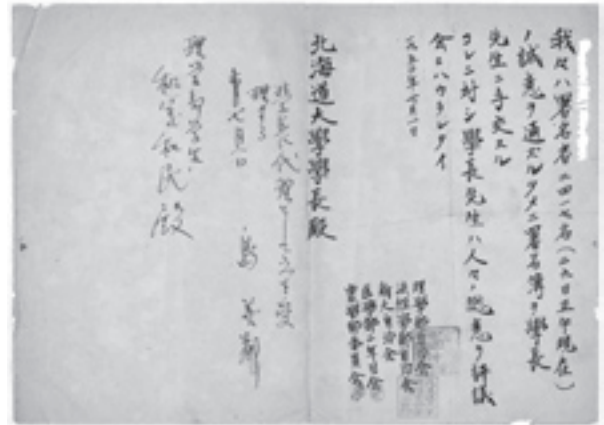
イールズ事件は，1950（昭和25）年5月，来学した連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）民間情報教育局の高等教育顧問イールズが，共産主義思想を有する大学教官の追放を主張する反動的講演を行なったのに対して，学生たちが講演を妨害したとして，多数の処分者を出した事件です。和氣氏は理学部学生としてイールズ講演に立ち会いました。

受贈した資料の1点目は，騒動に関与した学生の処分を評議会が決定したことに対し，理学部教官有志が反対を表明した「声明書」を，理学部学生自治会がガリ版刷りにして配付したビラです。



声明書

もう1点は，学生処分に反対して理学部学生自治会等が呼びかけて行なった署名を，学長に手交する際に添えた文書です。この文書には，学長代理として署名を受け取った島善鄰農学部教授の自署があります。両資料は，理学部学生自治会員として学生処分反対運動に関わった和氣氏が大切に保管してきたものです。



署名簿学長手交文書

北海道大学におけるイールズ事件に関する資料は，数点の写真以外はほとんど知られていませんでした。今回受贈した2点の資料は，事件に対して教官と学生の双方がそれぞれの立場からどのように関わったかを示す貴重な資料です。両資料は，戦後間もない時期の紙資料であり，劣化の危険性が非常に高いため，大学文書館では可能な限り劣化を防ぐ方途を勘案して大切に保管してまいります。

（大学文書館）

## お知らせ

## 平成22年度大学入試センター試験の実施期日

独立行政法人大学入試センターから、平成22年度大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項の発表がありました。

実施期日等は、次のとおりです。

- 受験案内の配付 平成21年9月1日(火)から
- 出願期間 平成21年10月1日(木)から14日(水)
- 実施期日 平成22年1月16日(土)・17日(日)
- 試験時間割

試験日	試験教科・科目		試験時間
第1日	公 民	「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」	9:30 ~ 10:30
	地理歴史	「世界史 A」, 「世界史 B」 「日本史 A」, 「日本史 B」 「地理 A」, 「地理 B」	11:15 ~ 12:15
	国 語	『国語』	13:30 ~ 14:50
	外国語	『英語』, 『ドイツ語』, 『フランス語』, 『中国語』, 『韓国語』	<b>【筆記】</b> 15:35 ~ 16:55 <b>【リスニング】</b> 『英語』のみ 17:35 ~ 18:35
第2日	理 科 ①	「理科総合 B」, 「生物 I」	9:30 ~ 10:30
	数 学 ①	「数学 I」, 『数学 I・数学 A』	11:15 ~ 12:15
	数 学 ②	「数学 II」, 『数学 II・数学 B』, 「工業数理基礎」, 『簿記・会計』, 『情報関係基礎』	13:30 ~ 14:30
	理 科 ②	「理科総合 A」, 「化学 I」	15:15 ~ 16:15
	理 科 ③	「物理 I」, 「地学 I」	17:00 ~ 18:00

(学務部入試課)

## 北海道大学における科学者の行動規範の制定

このたび、研究者による研究活動における不正行為や研究費の不正使用問題に対し、本学が責任をもって行う自律的な取り組みの一つとして、「北海道大学における科学者の行動規範」が制定されました。

本行動規範は、日本学術会議が策定した「科学者の行動規範」に基づき、本学にお

いて研究活動を行うすべての科学者の研究活動上の責任を簡潔に示すものです。

本学で研究活動を行う科学者の皆さんにおかれましては、本行動規範制定の趣旨をご理解いただき、これまで以上に高い倫理観に支えられた責任ある研究活動を行っていただきますようお願いいたします。

### 北海道大学における科学者の行動規範

科学と科学研究は人類社会の平和と安全および公正で豊かな未来のためにあり、科学技術の発展と科学者の主体的な判断に基づく研究活動は、社会からの信頼と負託を前提としてはじめて社会的認知を得ることができる。それゆえ、科学者は研究活動においてその透明性を維持し、社会に対する説明責任を果たすとともに、厳しく高い倫理観を要求されていることを常に自覚しなければならない。ここでいう「科学者」とは、人文・社会科学から自然科学までを包含するすべての学術分野において、新たな知識を生み出す活動、あるいは科学的な知識の利活用に従事する研究者、専門職業者を意味する。

こうした認識のもと、北海道大学は本学において研究活動を行うすべての科学者が、日本学術会議が策定した「科学者の行動規範」（平成18年10月3日）に基づき、研究活動を行うことを宣言し、行動規範をここに定める。

- 1) 科学者は、研究の立案・計画・申請・実施・報告等の過程において、研究・調査データのねつ造、改ざん、盗用等の不正行為を行わず、またこれに加担しない。
- 2) 科学者は、研究活動の透明性と説明責任を果たすために、実験や調査の記録等の研究資料を適切に保存する。
- 3) 科学者は、自らの行っている研究が社会の負託に応える重大な責務であることを強く自覚し、研究の実施、研究費の使用等に当たっては、法令や関係規則を遵守する。

※1 研究活動上の不正に関する申立て

<http://www.hokudai.ac.jp/sangaku/husei/report.html>

※2 国立大学法人利益相反マネジメント規程

[http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki\\_honbun/au01005431.html](http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki_honbun/au01005431.html)

(学術国際部研究協力課)



## 「北海道大学の役職員の給与等の水準(平成20年度)」の概要について

「国家公務員の給与改定に関する取扱について」(平成16年9月10日閣議決定)に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、平成20年度分の概要をお知らせします。

### ○ 平成20年度における役員の報酬等の支給状況

	役員10人(法人の長、理事(7人)、監事(2人))
年間報酬等の総額	144,501千円

### ○ 平成20年度における職員の給与水準

	比較対象 人員数(注)	平均年齢	平成20年度年間給与 額(平均)
事務・技術職員	879人	42.1歳	5,661千円
教育職員(大学教員)	1,851人	47.9歳	8,957千円
医療職員(病院看護師)	476人	35.6歳	4,985千円

注)「比較対象人員」は、平成21年4月1日現在在職している常勤職員(平成20年度途中の採用者、異動者を除く。)である。

### ○ 総人件費

区 分	平成20年度	平成19年度	比較増▲減	
給与、報酬等支給総額(A)(注1)	千円 29,625,384	千円 30,187,235	千円 ▲561,851	% ▲1.9
退職手当支給額(B)(注1)	千円 3,711,668	千円 3,853,748	千円 ▲142,080	% ▲3.7
非常勤役員等給与(C)(注2)	千円 9,411,024	千円 8,487,817	千円 923,207	% 10.9
福利厚生費(D)(注3)	千円 4,498,493	千円 4,485,984	千円 12,509	% 0.3
最広義人件費(A+B+C+D)	千円 47,246,569	千円 47,014,784	千円 231,785	% 0.5

注1)「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、役員及び常勤職員に支払われた報酬、給与等の総額並びに退職手当の総額である。

注2)「非常勤役員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注3)「福利厚生費」は、(A)及び(C)に対する法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ(広報・公開、情報公開、その他公表事項)に掲載されております。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/top-sub/johokoukai/others.html>)

(総務部人事課)

## 平成21年度の全学停電

本学自家用電気工作物保安規程に基づく平成21年度の「定期点検」のため、下記のとおり全学停電となりますので、学内の皆さまにはご不便をおかけしますが、ご協力をよろしくお願ひします。

記

1. 停電月日 平成21年9月13日（日）
2. 停電時間 8時00分～18時00分
3. 停電範囲 全学

問い合わせ先：施設部施設保全課電気保全担当 松川（内線3193）

（施設部施設保全課）

## 夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について

本年度も、夏季期間における休暇取得の奨励及び省エネルギー対策の実施に向けて、工学系建物の閉鎖を下記のとおり実施しますので、ご協力をよろしくお願ひします。

記

1. **実施期間・体制について**  
期 間：8月12日（水）～14日（金）  
体 制：原則として年末年始の期間と同様の体制とする
2. **郵便物・宅配便について**  
郵便物：集配しない  
宅配便：原則として警務室にて受理・保管する
3. **緊急時の体制について**  
事故時の対応は、原則として緊急連絡体制による

詳細については、工学系事務部総務課（TEL.011-706-6115）までお問い合わせください。

（工学研究科・工学部，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センター，エネルギー変換マテリアル研究センター，ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー，環境ナノ・バイオ工学研究センター，トポロジー理工学教育研究センター）

## 平成 21 年度 大学院経済学研究科・経済学部公開講座 経済学の考え方ー市場経済をどう捉えるか

大学院経済学研究科・経済学部は、地域貢献活動の一環として、今日の経済社会の諸側面について一般市民の皆様と共に考えていくことを目的に公開講座を開催しています。

本年度は、「経済学の考え方ー市場経済をどう捉えるか」を共通のテーマとし、4人の講師が各々の得意分野から、興味深いトピックスを題材として取り上げて講述します。多くの皆様の期待に応えるものとなるはずです。ふるってご参加いただければ幸いです。

### 1. 開講日程

	日 程	講 義 題 目	講 師
第1回	9月12日(土)10:30~12:00 (※開講式 10:00~10:15)	現代経済をめぐる イデオロギー状況	大学院経済学研究科 准教授 橋本 努 (はしもと つとむ)
第2回	9月12日(土)13:30~15:00	貨幣と情報	大学院経済学研究科 教授 西部 忠 (にしべまこと)
第3回	9月26日(土)10:30~12:00	経済的自由主義の盛衰	大学院経済学研究科 教授 佐々木 憲介 (ささき けんすけ)
第4回	9月26日(土)13:30~15:00 (※閉講式 15:00~15:15)	マルクスの経済学と現代 -「働く」ということ	大学院経済学研究科 教授 岡部 洋實 (おかべひろみ)

2. 実施会場 人文・社会科学総合教育研究棟 (W103講義室)

3. 受講資格 どなたでも受講できます

4. 定 員 50名程度

5. 受講料 2,500円 (別途, 振込み手数料が必要です)

※納入された受講料は返還できませんのでご注意願います

6. 申込要領 (1) 申込期間: 8月3日(月)~8月31日(月) [土・日曜日を除く]

(2) 申 込 先 : 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目  
北海道大学経済学研究科・経済学部庶務担当

(3) 申込手続: 受講申込書又は任意の様式に郵便番号, 住所, 氏名(ふりがな), 電話番号を記入のうえ, 持参または郵送で申し込み願います  
(FAX, 電話も可)

7. 修了証書 全回受講した方には, 最終講義終了時に修了証書を交付します

8. その他 道民カレッジに入学されている方で, 本講座を受講し, 修了証書の交付を受けた方は, 道民カレッジの単位を取得することができます (環境生活コース6単位)

この講座についての照会は, 下記で取り扱っております

北海道大学経済学研究科・経済学部庶務担当

〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目

TEL (011) 706-4058 FAX (011) 706-4947

※大学院経済学研究科・経済学部のホームページ: <http://www.econ.hokudai.ac.jp/>

(経済学研究科・経済学部)

## 博士学位記被授与

6月30日（火）に本学大学院研究科の所定の課程を修了した課程博士は28人、及び本学に学位論文を提出しその審査、試験等に合格した論文博士は7人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部教務課)

### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名	氏名	
博士(法学)	しもむら	たいち	転換期における田中角栄の政治指導 —宅地・農業・産業立地政策を中心として—
博士(医学)	たか	あゆむ	気管支喘息における osteopontin (OPN) と好酸球性気道炎症の 関連
	まつ	や	心電図同期心筋血流シンチグラフィを用いた虚血性／非虚血性心 筋症症例に対する左室形成術後心機能評価の検討
	よね	や	Prognostic impact of para-aortic lymph node micrometastasis in patients with regional node-positive biliary cancer (所属リンパ節転移陽性胆道癌症例における大動脈周囲リンパ節 微小転移の意義)
博士(工学)	や	お	アルゴンのナノ液滴の気液平衡と真空蒸発に関する分子動力学 (Molecular Dynamics on Vapor-Liquid Equilibrium and Vacuum Evaporation of Argon Nanodroplet)
	た	ひろ	光によるエマルジョンスラリーの固化率計測手法に関する研究
	やま	ひこ	破砕性火山灰土の微小変形せん断係数に及ぼす凍結融解履歴の影響 とその評価法
博士(獣医学)	おお	おり	Studies on developmental dynamics and causing factors of testicular oocyte in MRL/MpJ mice (MRL/MpJ マウスにおける精巣内卵細胞の発生動態と責任因子 に関する解析)
博士(情報科学)	むら	た	Topological properties and synchronization dynamics of coupled oscillator networks (結合振動子ネットワークのトポロジカル特性と同期ダイナミク ス)
博士(工学)	かわ	すけ	光子の軌道角運動量もつれ合いの生成と制御に関する研究
博士(情報科学)	いわ	ひろ	虚血・再灌流時におけるアストロサイトの機能動態変化と細胞外 ATP-プリン受容体シグナル伝達系に関する研究 (Studies on the extracellular ATP-purinoceptor signaling for ischemia/reperfusion-induced changes in the dynamics of astrocytic function)
博士(工学)	なみ	たけし	後方散乱光時間分解計測による生体断層イメージングのための基 礎的検討
博士(水産科学)	やま	こ	LOPC (Laser Optical Plankton Counter) を用いた動物プランク トンの計測に関する研究

博士(環境科学)	ウ 子	コウ 洪	ブン 文	Development of Novel Adsorbents for Environmental Remediation by Using Carbon Nanotubes as the Functional Sites (カーボンナノチューブを素材にした吸着材料の開発と環境浄化応用)		
	タン 譚	シャオ 暁	ミン 明	Cytotoxicity of Multi-wall Carbon Nanotubes on Plant Cells in in vitro Culture System (in vitro 培養システムにおける多層カーボンナノチューブの植物細胞に対しての細胞毒性の評価に関する研究)		
	こ 小	ばやし 林	まこと 誠	Population processes of dominant tree species Siebold's beech (Fagus crenata Blume) at its northern distribution front (北限分布境界域における優占樹種ブナの個体群過程)		
	き 木	むら 村	もと 幹	こ 子	Molecular ecological studies on hybridization among the three greenlings (Hexagrammudae): Reproductive isolation and hemiclinal reproduction (アイナメ科魚類3種間の交雑に関する分子生態学的研究: 生殖的隔離機構と半クローン生殖)	
博士(地球環境科学)	いづみ 泉	ひろ 洋	え 江	Genetic structure of the tree sparrow Passer montanus populations in Japan and its vicinity (日本とその周辺におけるスズメ個体群の遺伝的構造)		
博士(理学)	さ 佐	とう 藤	のり 規	ふみ 文	A simple proof of convergence of the Allen-Cahn equation to Brakke's motion and its application to the flow of two-phase fluid with surface tension (Allen-Cahn 方程式の解の Brakke の平均曲率流への収束の直接証明及びその表面張力を含む2相流体問題への応用)	
	ジャン 江		ユ 諭		Mathematical Data Analysis for Magnetic Resonance Elastography (Magnetic Resonance Elastography のデータ解析)	
	いし 石	かわ 川		まなぶ 学	Structural and Transport Properties of Low-Dimensional Conductors Based on Axially Substituted Metallophthalocyanines (軸配位金属フタロシアニン低次元伝導体の構造と輸送特性)	
	はやし 林	しょう 昭	じ 次		Bone Histology of Thyreophoran Osteoderms (装盾類における皮骨の骨組織)	
	ひら 平	た 田	なお 尚	や 也	細胞伸展におけるミオシンIIアイソフォームの局在とリン酸化状態に関する研究	
	あお 青	き 木	ゆ 裕	み 美	こ 子	Analyses on germline establishment and differentiation by nuage components in medaka (Oryzias latipes) (生殖顆粒構成成分によるメダカ生殖細胞系列確立分化解析)
	はち 八	す 須	まさ 匡	かず 和	Structural and Functional Studies on Antifreeze Glycoproteins (不凍糖タンパク質の構造と機能の解明)	
博士(農学)	まつ 松	かわ 川	のり 典	こ 子	オリゴ糖による水溶性フラボノイド配糖体の吸収促進とその作用機構の解析	
	し 清	みず 水	ま 真	り 理	こ 子	堆肥施与が経年採草地における温室効果ガス収支に与える影響
	ラー Rahman	マン Farrokhi	ファ Teimourlou	ロイ		DEVELOPMENT OF AUTONOMOUS AGRICULTURAL VEHICLE USING OMNIDIRECTIONAL CAMERA AS NAVIGATION SENSOR (全方位カメラを航法センサとした農用自律走行車両の開発)

博士学位記被授与

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士(医学)	あさ しま ひろ し 浅 島 弘 志	急性心筋梗塞発症患者で LDL コレステロールが一次予防基準値以下である患者の解析および急性心筋梗塞発症予防における LDL コレステロール・HDL コレステロール比の有用性の検討とその管理目標値設定の試み
博士(獣医学)	さい とう み か 斉 藤 美 加	Studies on characteristics of Japanese encephalitis virus and the serological survey on Okinawa Island (沖縄島に分布する日本脳炎ウイルスの性状及び血清学的調査に関する研究)
	にい み きみ え 新 美 君 枝	老化促進マウス Senescence-accelerated mouse prone 6 (SAMP6) の脳高次機能における加齢変化に関する研究
博士(水産科学)	エヴァン A ハウエル Evan A.Howell	Satellite-based horizontal and vertical habitat estimation for loggerhead turtles (Caretta caretta) and bigeye tuna (Thunnus obesus) in the North Pacific Ocean (北太平洋におけるアカウミガメおよびメバチマグロの衛星データに基づいた水平・鉛直生息域の推定)
博士(環境科学)	まつ うら ひろ し 松 浦 裕 志	棘皮動物幼生の変態誘起物質
	なか むら おさ み 中 村 修 美	Systematics and ecological distribution of the family Eosentomidae (Hexapoda:Protura) in Japan (日本産カマアシムシ科(六脚綱、カマアシムシ目)の分類と生態分布)
博士(農学)	きし の えり こ 岸 野 恵理子	消化吸収を制御する機能性食品素材の基礎的・実用的研究

告 示

告 示

北海道大学告示第1号

北海道大学共同利用施設等管理規程(昭和38年海大達第3号)第2条の規定に基づき、共同利用施設「加速器研究室」の指定を解除する。

平成21年4月30日

北海道大学総長 佐 伯 浩

北海道大学告示第2号

北海道大学共同利用施設等管理規程(昭和38年海大達第3号)第2条の規定に基づき、共同利用施設「エリアモニター施設」の指定を解除する。

平成21年4月30日

北海道大学総長 佐 伯 浩

# 研 修

研 修 名 (主催部局名)	開 催 期 間	開 催 場 所	研 修 目 的
平成 21 年度北海道地区 国立大学法人等中堅職員 研修 (総務部人事課)	平成 21 年 6 月 22 日 ～平成 21 年 6 月 24 日	北海道大学 百年記念会館 大会議室	北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、問題解決能力の向上を図ることを目的とする。



受 講 風 景



『特別講話：中堅職員に期待するもの』  
(齊藤 広志 小樽商科大学事務局長)



『大学の諸情勢について』  
(羽鳥 政男 文部科学省高等教育局  
国立大学法人支援課専門官)



『演習・グループワーク等』  
((株) マネジメントサービスセンター)

## 表 敬 訪 問

〈国内〉

月 日	来 訪 者
21. 6.18	キリンビール株式会社 代表取締役社長 松沢 幸一氏
21. 6.18	国際協力機構（JICA）副理事長 大島 賢三氏
21. 6.25	株式会社バンダイナムコ ホールディングス 代表取締役会長 高須 武男氏
21. 6.25	北海道大学農学部旧農芸化学科昭和 34 年卒業生一行 米国カリフォルニア大学名誉教授 浅野 孝氏



キリンビール株式会社



国際協力機構（JICA）副理事長  
大島 賢三氏（右から 3 人目）



株式会社バンダイナムコ ホールディングス



北海道大学農学部旧農芸化学科昭和 34 年卒業生一行  
米国カリフォルニア大学名誉教授 浅野孝氏（前列中央）

（総務部広報課，学術国際部国際企画課）



〈海外〉

月 日	来 訪 者	目 的
21. 6. 3	オーストラリア大使館 ミッシェル・アラン 教育担当参事官	両国の教育に関する懇談
21. 6. 10	大連理工大学(中国) 欧進萍 学長	両大学の交流に関する懇談
21. 6. 18	シェフィールド大学(英国) クレア・ベインズ 大学運営担当事務長(併) アカデミック・サービス部長	本学幹部職員との意見交換
21. 6. 19	中正大学(台湾) 施 慧玲 国際交流センター長	両大学の交流に関する懇談



オーストラリア大使館  
ミッシェル・アラン教育担当参事官



大連理工大学 欧進萍 学長(中央)



シェフィールド大学 クレア・ベインズ  
大学運営担当事務長(併)  
アカデミック・サービス部長



中正大学 施 慧玲  
国際交流センター長(中央)

(学術国際部国際企画課)

## 同窓会との交流

### －平成21年度北海道大学連合同窓会総会の開催－

平成21年6月17日（水）、札幌市内のホテルで、北海道大学連合同窓会総会（評議員会・幹事会合同会議）が開催されました。

総会には役員、評議員である各学部等同窓会会長、各地の地区同窓会会長及び各学部等同窓会、東京同窓会、関西同窓会幹事の計58名が出席し、平成20年度事業・決算報告及び平成21年度の事業計画について、審議が行われました。

総会終了後に行われた懇談会では、参加者同士の意見交換が活発に行われ、最後は全員で「都ぞ弥生」を合唱し盛況のうちに終了しました。



総会の様子



懇談会での「都ぞ弥生」合唱

（総務部広報課）

## —関西同窓会一般社団法人移行記念行事—

6月27日(土)、関西同窓会の「一般社団法人移行記念行事」が大阪駅前第2ビルで開催されました。当日は54名の出席者があり、本学からは逸見理事・副学長が出席しました。

記念行事は、第1部から第4部で構成され、午後1時30分から午後8時までの長時間にわたり種々のイベントが行われました。第1部では有限責任中間法人北海道大学関西エルム会がこの度の公益法人制度改革により「一般社団法人北海道関西エルム会」として名称変更し、新たに出発することが披露されました。第2部では「母校を知ろう・・・OBによる部活、サークルの紹介」と題し、文化系2団体、体育系7団体に所属し活動したOBたちが3時間にわたり、学生時代の思い出や現在の団体との関わりなどについて熱く語るというもので大いに盛り上がりました。

最後の記念パーティーでは恒例の寮歌「都ぞ弥生」を参加者全員肩を組んで歌いました。



挨拶する逸見理事

(総務部広報課)

## 諸会議の開催状況

### 役員会（平成21年6月8日）

- 協議事項・第二期中期目標・中期計画（案）について
- ・法学研究科法律実務専攻の入学定員について
  - ・理工系大学院の再編設置構想について
  - ・総合化学院の設置準備について
  - ・教育倫理綱領（案）について
  - ・重要な財産を譲渡する計画について
  - ・平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について
  - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書（案）について
  - ・平成20年度決算について
  - ・平成22年度概算要求事項について
- 報告事項・平成21年度産業技術研究開発施設整備費補助金の応募について
- ・（独）産業技術総合研究所との連携協力協定について
  - ・技術移転に関する協定書の締結について
  - ・平成20年度に完成した主な施設
  - ・病院の長期収支見込みについて
  - ・平成22年度特別経費事前説明事業について

### 経営協議会（平成21年6月17日）

- 議 題・第二期中期目標・中期計画（案）について
- ・土地を譲渡する計画について
  - ・平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
  - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
  - ・「教員免許状更新講習」の実施に伴う新たな「手当」の導入について
  - ・平成20年度決算について
  - ・平成22年度概算要求事項について
- 報告事項・人事委員会報告について
- ・創成研究機構の設置について
  - ・大学技術移転促進法に基づく実施計画の承認ならびに産学連携体制について
  - ・（財）北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）との包括連携協定について
  - ・「北大フロンティア基金」の寄附受入状況等について

### 教育研究評議会（平成21年6月18日）

- 議 題・第二期中期目標・中期計画（案）について
- ・法学研究科法律実務専攻の入学定員について
  - ・総合化学院の設置準備について
  - ・理工系大学院の再編設置構想について
  - ・教育倫理綱領について
  - ・北海道大学における科学者の行動規範について
  - ・大学間交流協定の新規締結について
  - ・平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
  - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
  - ・平成22年度概算要求事項について
- 報告事項・人事委員会報告について
- ・第2回G8大学サミットについて
  - ・寄附講座等の設置について
  - ・平成20年度北海道大学外国人留学生後援会の決算について

**役員会** (平成21年6月23日)

- 議案・第二期中期目標・中期計画(案)について
- ・法学研究科法律実務専攻の入学定員について
  - ・総合化学院の設置準備について
  - ・理工系大学院の再編設置構想について
  - ・教育倫理綱領について
  - ・北海道大学における科学者の行動規範について
  - ・土地を譲渡する計画について
  - ・平成20年度決算について
  - ・平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
  - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
  - ・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部改正について
  - ・平成21年度補正予算事業「教育研究高度化のための支援体制整備」について
  - ・平成22年度概算要求について
  - ・顧問弁護士の導入について
- 報告事項
- ・平成23年度以降の学部入試学生募集概要について
  - ・大学院入試等に係るネット出願について
  - ・産学官連携拠点の選定結果について
  - ・平成20事業年度に係る業務の実績に関する国立大学法人評価委員会のヒアリングの実施について
  - ・平成22年度概算要求事業の概要について
  - ・役職員の報酬・給与等の水準の公表について
  - ・会計検査院会計実地検査の結果について

---

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

## 学 内 規 程

---

### 北海道大学における聴講生等の検定料等の額に関する規程の一部を改正する規程

(平成21年6月12日海大達第141号)

平成21年度から、本学において教育職員免許法に基づく免許状更新講習を開設することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学病原体等安全管理規程の一部を改正する規程

(平成21年6月18日海大達第142号)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律（平成20年法律第30号）が、平成20年5月2日に公布され、同年5月12日に施行されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程

(平成21年6月30日海大達第143号)

創成研究機構に置かれる共用機器管理センター会議の委員を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学借上宿舎等規程の一部を改正する規程

(平成21年6月30日海大達第144号)

平成21年7月1日から、本学の借上宿舎であるメゾン・ド・グルーにおいて、新たにインターネットを利用することができる環境を備えた居室を借り上げることに伴い、所要の改正を行ったものです。（平成21年7月1日施行）

---

### 北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成21年7月1日海大達第145号)

本年7月1日付けで、先端生命科学研究院に寄附分野を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(平成21年7月1日海大達第146号)

平成21年度から、本学において教育職員免許法の規定に基づく免許状更新講習を開設し、当該講習の業務に従事した、教授、准教授、講師及び助教に教員免許状更新講習手当を支給することとするに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

## 人事

## 平成21年4月1日付発令(4月号未掲載分)

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【技術職員】</b> 大学院医学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院理学研究院技術専門職員 大学院理学研究院技術専門職員 電子科学研究所技術専門職員 触媒化学研究センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	西 出 円 高 田 寿 明 佐 藤 孝 一 道 口 敏 幸 山 保 敏 幸 田 島 敏 裕 竹 内 大 登 今 村 逸 子 石 川 勝 久 茂 木 紀 昭 中 城 敏 明 浪 花 愛 子 金 子 潔 子 長谷川 潤 子 小 塚 力	大学院医学研究科 大学院工学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院工学研究科技術専門職員 大学院理学研究院 大学院理学研究院 電子科学研究所 触媒化学研究センター 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター 北方生物圏フィールド科学センター 北方生物圏フィールド科学センター 北方生物圏フィールド科学センター

## 平成21年6月4日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【主任】</b> (退職)	富 西 美 貴	財務部調達課主任

## 平成21年6月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【助教】</b> (辞職)	嶋 田 修 之	大学院薬学研究院助教

## 平成21年6月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【副理事】</b> (任期満了)	伊 藤 雅 之	副理事
<b>【課長・事務長・室長】</b> (任期満了) 北洋銀行	谷 田 裕 幸	財務部主計課財務管理室長
<b>【教授】</b> (転出) 総務省 東京大学医学系研究科教授	木 幡 浩 則 晶 山 昌	大学院公共政策学連携研究部附属 公共政策学研究センター教授 遺伝子病制御研究所教授
<b>【助教】</b> (辞職)	津布久 崇	北海道大学病院助教
<b>【技術職員】</b> (辞職)	奥 野 文 子 田 中 沙 奈 村 井 奈 緒 前 田 真 希 山 本 幸 子 大 石 綾 子 小 林 綾 子 中 橋 季 奨	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部理学療法士

## 平成21年7月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【部局長・施設長等】</b> 遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター長 (期間：平成23年6月30日まで)	高 岡 晃 教	遺伝子病制御研究所教授
<b>【教授】</b> 大学院法学研究科教授	寺 川 祐 一	採用

平成 21 年 7 月 1 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院医学研究科教授 大学院工学研究科教授 北海道大学病院教授 電子科学研究所教授	佐 邊 壽 孝 羽 山 広 文 佐 藤 典 宏 西 井 準 治	採用 大学院工学研究科准教授 北海道大学病院講師 採用
【准教授】 大学院文学研究科准教授 大学院農学研究科准教授 大学院教育学研究院准教授 北海道大学病院准教授	中 地 美 枝 仁 木 剛 史 河 西 哲 子 山 田 武 宏	採用 採用 大学院教育学研究院助教 採用
【講師】 大学院薬学研究院講師 大学院薬学研究院講師	米 田 宏 佐 々 貴 之	大学院薬学研究院助教 採用
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院獣医学研究科助教 北海道大学病院助教 遺伝子病制御研究所助教	佐 藤 智 信 池 中 良 徳 水 町 貴 諭 飯 笹 久	採用 採用 採用 採用
【課長・事務長・室長】 財務部主計課財務管理室長	佐々木 泰 之	北洋銀行
【補佐】 財務部調達課 (兼務) 北海道大学病院医事課医療支援室室長補佐	寺 澤 睦 三 浦 順 一	財務部主計課課長補佐 北海道大学病院総務課係長
【係長】 企画部調査分析課係長 財務部調達課 (兼務) 財務部調達課 (兼務) 財務部調達課 (兼務) 学務部教務課係長 学術国際部研究協力課係長 北キャンパス合同事務部係長 北海道大学病院総務課係長 低温科学研究所係長 (出向復帰) メディア・観光学事務部係長	清 水 智 之 岩 佐 俊 明 浅 野 智 裕 馬 場 勝 浩 菊 池 茂 美 原 田 由 美 伊 藤 藤 香 泉 澤 成 香 吉 井 実 洋	学術国際部研究協力課係長 財務部主計課係長 財務部主計課係長 財務部主計課係長 北キャンパス合同事務部係長 メディア・観光学事務部係長 文学研究科・文学部主任 企画部調査分析課係長 学務部学生支援課係長
【主任】 財務部調達課 (兼務) 財務部調達課 (兼務) 財務部調達課 (兼務) 財務部調達課 (兼務) 施設部施設企画課主任 文学研究科・文学部主任 農学事務部主任	伊 藤 広 雄 澁 谷 勇 一 奥 大 輔 山 内 貴 敏 水 野 嘉 永 阿 部 千 夏 小 番 千 子 小 番 千 子 湖	財務部主計課主任 財務部経理課主任 工学系事務部経理課主任 農学事務部主任 医学系事務部総務課主任 低温科学研究所主任 薬学事務部主任
【係員】 総務部人事課 財務部主計課 財務部調達課 (兼務) 学務部学生支援課 法学研究科・法学部 法学研究科・法学部 医学系事務部総務課 (出向) 株式会社ディスコ	鈴 木 孝 幸 表 山 尚 史 加 藤 萌 子 西 藤 宏 章 濱 東 小 紗 川 岡 越 小 恵 武 部 千 美 部 将 智	監査室 北海道大学病院経営企画課 学務部学生支援課 法学研究科・法学部 医学系事務部総務課 学務部教務課 法学研究科・法学部
【嘱託職員】 工学系事務部経理課 (兼務)	板 垣 忠 良	財務部調達課
【技術職員】 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師	上 田 清 香 林 田 佳 奈 三 浦 文 華	採用 採用 採用



## 新任教授紹介

平成21年7月1日付

法学研究科教授に <sup>てらかわ ゆういち</sup> 寺川 祐一 氏  
(法学政治学専攻現代法講座)



生年月日  
昭和30年9月13日  
最終学歴  
早稲田大学商学部卒業  
(昭和55年3月)  
専門分野  
経済法

北海道大学病院教授に <sup>さとう のりひろ</sup> 佐藤 典宏 氏  
(高度先進医療支援センター)



生年月日  
昭和35年3月18日  
最終学歴  
北海道大学医学部医学科  
(昭和57年3月)  
専門分野  
血液内科学,  
細胞プロセッシング,  
臨床試験

医学研究科教授に <sup>さべ ひさたか</sup> 佐邊 壽孝 氏  
(医学専攻生化学講座)



最終学歴  
京都大学大学院医学研究科博士課程修了  
(昭和61年3月)  
医学博士(京都大学)  
専門分野  
分子腫瘍学, 分子細胞生物学

電子科学研究所教授に <sup>にしい じゅんじ</sup> 西井 準治 氏  
(電子機能素子研究部門)



生年月日  
昭和32年8月16日  
最終学歴  
東京都立大学大学院工学研究科工業化学専攻修士課程修了  
(昭和57年3月)  
博士(工学)(東京都立大学)  
専門分野  
光機能材料

工学研究科教授に <sup>はやま ひろふみ</sup> 羽山 広文 氏  
(空間性能システム専攻空間性能講座)



生年月日  
昭和30年8月30日  
最終学歴  
北海道大学大学院工学研究科修士課程修了  
(昭和55年3月)  
博士(工学)  
(北海道大学)  
専門分野  
建築環境学

## 新任部課長等紹介

平成21年7月1日付

財務部主計課財務管理室長に さ さ き やすゆき 佐々木 泰之 氏



昭和41年4月8日生  
平成1年3月  
北海道大学経済学部卒  
平成1年4月  
北海道拓殖銀行  
平成9年1月  
北海道拓殖銀行国際部  
国際資金為替グループ  
副主事

平成10年11月 北洋銀行外国為替推進部調査役

平成13年7月 北洋銀行国際部調査役

平成19年7月 北洋銀行函館中央支店次長

## 〈編集メモ〉

▼「リテラポプリ37号」が発行されました。今回の特集は「北大は言語で世界と向き合う」と題し、私たちのコミュニケーションに欠かせない言語にまつわる研究を行っている文系・理系の様々な分野の研究者にご登場いただきました。また、今回から特集記事の企画・制作について、北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット (CoSTEP)

に協力いただくことになりました。8月上旬掲載予定のホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/littera-before.html>) では、本誌に掲載できなかったこぼれ話なども紹介していく予定です。ご期待ください。



2008.07.20 大雪山北海岳

——— 北の息吹② チシマクモマグサ (*Saxifraga merkii* var. *merkii*) ———

個人的にはもっとも好きな高山植物の一つで、日本では北海道にしか分布しない。全体のサイズに比べて大きな花を、ほどよい密度で付けるのが好ましい。厚みのある葉は全縁で縁に毛が生えているが、白馬岳にある変種のクモマグサ(var. *idsuroei*)では葉に切れ込みがある。寒冷な環境下では全縁だった葉が温暖化に伴って切れ込みが入る傾向は他にも知られており、ヒマラヤの環境史を復元するのにも利用されているという。母種の和名にチシマという形容詞が付き、そこから分かれた変種の方には形容詞がないというのは、学名の概念からいうと変な感じがするが、記載された歴史を反映しているのであろう。

理事・副学長 岡田 尚武

北大時報⑦ July 2009 No.664

平成 21 年 7 月 発行

北海道大学総務部広報課

〒 060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/